

令和8年3月19日

経営情報学部教務委員会

医療情報学部教務委員会

情報メディア学部教務委員会

1. 自己点検・評価について

文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）」の審査項目の観点による評価を行う。

2. 自己点検・評価結果について

3項(1)～(9)に記載のとおり、本プログラムは概ね適切に運用されていると評価する。一方で、履修率および成績分布において昨年度と比較し変化が見られた。

履修状況については、1年生の履修率（履修者/履修対象者）が52.1%と、昨年度46.4%から5.7%ポイント向上している。しかし、2年生の修得率（単位修得者/履修対象者）が42.5%に留まっており、プログラムの意義や体系性について、より一層の周知が必要であることが明らかとなった。

学修成果については、合格率（単位修得者/履修者）は全体75%以上と引き続き高水準を維持している。

授業評価アンケート結果からは、理解度および推奨度はいずれも概ね高い水準を維持しており、「学ぶ楽しさ」「学ぶ意義」は一定程度醸成されていると評価できる。一方で、より分かりやすい授業運営に向けた改善の余地も確認された。

以上のことから、本プログラムは基本的な教育効果を維持しているものの、履修拡大および学修成果の質的向上に向けた取組を一層強化する必要があると評価する。

3. 自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等

(1) プログラムの履修・修得状況

本プログラムを構成する1～2年次配当科目の履修状況を確認したところ、履修対象学生数(742名)に対し、履修率(履修者/履修対象者)は34.7%(2年生19.6%、1年生52.1%)となっている。また、各学年においてすべての科目を履修している学生の割合は全体で5.8%(2年生7.1%、1年生4.5%)に留まっており、これはプログラムの体系的履修が十分に浸透していないことを示している。なお、2年生における1年次配当科目の累積修得率(履修対象者に対して)は全体で7%ポイント程度の向上となった。

(2) **学修成果**

1～2 年次配当科目（情報の世界，線形代数 I，微分積分，統計学）の履修者に対する合格率を分析したところ，情報の世界 90%以上，数学系科目（微分積分（I を含む）・線形代数（I を含む）・統計学）75～85%と概ね高水準を維持している。

(3) **学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度**

授業評価アンケートにおいては，多くの学生が「知識や技能を獲得できた」と回答しており，全体として理解度は高い水準にあると評価する。一方で，一部科目では「難度レベルが高い・進度が速い」とする回答も一定数見られ，学生の学力差に対応した指導方法の工夫が必要である。

(4) **学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度**

推奨度に関する回答は概ね肯定的であり，本プログラムの授業は学生に一定の評価を得ていると判断できる。推奨度が高いことは，「学ぶ楽しさ」や授業満足度が確保されていることを示す一方で，今後は体系的履修につながるよう，プログラム全体の位置付けをより明確に示す必要がある。

(5) **履修率向上に向けた計画**

3 項 (1) で示したように，本プログラムを構成する 1～2 年次配当科目の履修状況を確認したところ，履修対象学生数（742 名）に対し，履修率（履修者/履修対象者）は 34.7%（2 年生 19.6%，1 年生 52.1%）となっている。また，各学年においてのすべての科目を履修している学生の割合は全体で 5.8%（2 年生 7.1%，1 年生 4.5%）に留まっており，これはプログラムの体系的履修が十分に浸透していないことを示している。今後は，ガイダンスで本プログラムに関する資料配布，履修呼びかけ等の説明強化，本プログラムの位置付けの明確化等により，体系的履修を促進する。

(6) **教育プログラム修了者の進路，活躍状況，企業等の評価**

本プログラムは令和 6 年度から開講しており，配当年次が異なるため，修了者はまだいない状況である。このことから修了者の進路・活躍状況等に関する情報は整っていないため，未評価とする。履修者卒業後については就職課と協力しながら状況把握を行う。

(7) **産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見**

現時点では，意見収集を実施していない。今後，本学に関係のある外部アドバイザー企業にアンケートにて情報収集を実施する。

- (8) **数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること**
アンケート結果から、授業内容に対する満足度は高く、「学ぶ楽しさ」は一定程度醸成されていると判断する。また、「情報の世界」において、データ等の具体的な活用事例を紹介することで、「学ぶことの意義」を理解させる取組を行っている。今後は、産業界との接続事例をさらに提示し、実社会との関連をより明確にする。
- (9) **内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること**
授業評価アンケートおよび成績分布の分析結果を踏まえ、授業内容は概ね適切であると評価する。一方で、科目間で成績分布に差が見られることから、事前・事後学修、演習構成等について改善の余地があると考えられる。今後も授業評価アンケートを活用し、PDCAサイクルに基づき継続的改善を行う。

以上